

中期計画【1-1】:「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を基礎とし、地域創生への貢献、イノベーションの創出、エコシステムを利用した教育の実現のための研究の推進(成果例として外部資金の獲得に繋がる研究の推進)

研究題目 産学連携によるアジャイルなMONOづくりの展開

研究グループメンバー

渡邊 真也 しくみ解明系領域 准教授(代表)、近藤 敏志 しくみ解明系領域 准教授、佐藤 和彦 しくみ解明系領域 准教授
小林 洋介 しくみ解明系領域 助教、岸上 順一 しくみ解明系領域 特任教授

第4期の中期目標・中期計画の達成に貢献する研究概要

「ウォーターフォール的開発思考」と「アジャイルの開発思考」の融合による新しいMONOづくり展開

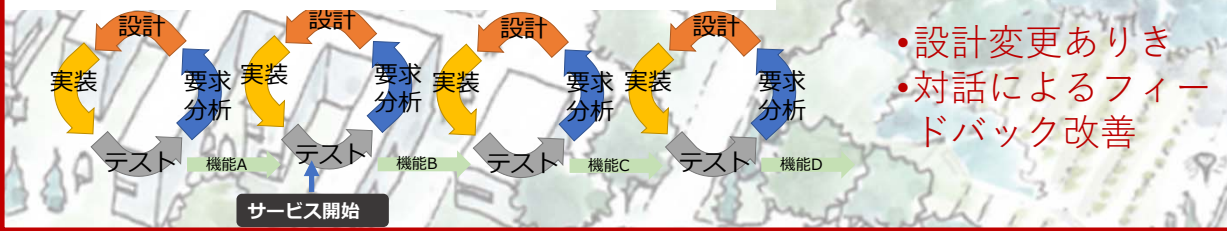
複雑系を有する製造業、処理設備におけるDX化・デジタルツイン化推進のために、アジャイル的発想を取り入れた実用性重視の開発スキーム確立を目指す。具体的には、開発速度、費用対効果を重視し、ユーザー側にとって初期段階からメリットを感じられる開発を行うことで、地元企業を含めた幅広い企業に対してDX化・デジタルツイン化を推進し、効率化・省人化・コスト削減の実現を目標とする。

ウォーターフォール開発：全機能がパラレルで進行



従前のものづくりの思考（ウォーターフォール型）にアジャイル的思考を組み込み

アジャイル開発：機能ごとにリリースしていく



DX化・デジタルツイン化推進による効果

- 研究開発のスピード化
- 開発システムの高実用化
- 新規性/独自性の向上
- 先端的AI技術の有効活用化

